

# 生物／文化の多様性と景観



photo by Taizo UCHIDA



photo by Hajime MATSUSHIMA



photo by Katsue FUKAMACHI

生物と文化の多様性をたいせつにすることは、現代における人間の大きな責務です。人間は、近代科学技術の威力によって利便性と経済性のたかい活動空間がもたらされるとともに、自然を回復できないところまで破壊しつつあります。しかしかつては里山に典型的にみられたように、人々が自然を資源として採集、生産、消費することで、かえって生物の多様性が増すという、人間と自然の調和が持続していました。

きわめて単純に考えれば、自然に対する前者のアプローチをやめて、後者に転換しなければならぬでしょう。このままいけば、そんなに遠くない将来に、地球は人間をふくむ生物にとって、もはや安定して生活することができない過酷な環境に劇的に変貌してしまうことでしょう。新緑の美しい季節は、もはや戻ってきてくれなくなるでしょう。セッカやヒバリやウグイスは、声をかぎりにうたうのをやめてしまうでしょう。

しかしこの単純な道理を十分効果が上がるように実践することは、私たち人類にはなかなか容易ではありません。私たちは、問題解決を先送りするばかりのようです。自分一人ではどうしようもないと考えがちです。そのうえ、私たちの心は、つねにどこか落ち着きがないように思われます。

ところで、かつてある著名な河川工学者が、文化の所在についてつぎのように言ったことを思い出します：“文化というのは美術館や博物館や劇場にあるというよりも、むしろ人々が自然の制約に折り合いをつける生活の仕方の中にあるのだ。柳川堀割と人々とのかわりが好例だ”。ここでは生物の多様性と文化の多様性は相即的にはたらいっていました。

人の営みが地球規模で環境を変えたといわれる「人新世」の現代に将来の持続を思い描こうとするとき、自然の制約に折り合いをつける人々の営みがもたらす風景をよくよく吟味する必要があるように思われます。今回のシリーズは、そんなことを思いながら企画をしたものです。一緒に学び、感じ、考え、そして行動しませんか？

景観研究センター所長 山下三平

テーマ：生物／文化の多様性と景観

■ 6月7日(金) 18:00-19:30

野の草花と文化的景観

内田 泰三 (九州産業大学 建築都市工学部 教授)

<https://ksu-keikanseminar2024f1.peatix.com/>

■ 7月5日(金) 18:00-19:30

海岸風景の継承：生態系保全とコミュニティの形成

松島 肇 (北海道大学大学院 農学研究院 講師)

<https://ksu-keikanseminar2024f2.peatix.com/>

■ 7月19日(金) 18:00-19:30

水といきものと文化的景観

深町 加津枝 (京都大学大学院 地球環境学堂 准教授)

<https://ksu-keikanseminar2024f3.peatix.com/>

会場：対面 九州産業大学23号館4階 景観研究センター 景観ライブラリー  
Online Zoom ミーティング \*各回ともPeatixにてお申し込みください

参加費：無料

九州産業大学景観研究センター  
景観セミナー／レクチャーシリーズ  
2024 前期